

平成 28 年度 研究計画書

Research Plan FY2016

DATE : 2016/06/24

講座名・職名 Course Title・Job Title	日本語日本文化教育センター 教授
氏名 Name	今井 忍
専門分野 Academic Field	日本語学・言語学

平成 28 年度 研究計画 (ホームページで公開) Research Plan FY2016 (Post on Website)

主たる研究テーマ Principal Research Subject	日本語の形態法に関する認知言語学的研究				
研究計画 (400 字~500 字で記入すること。) Research Plan (Approximately 100 Words)					
<p>引き続き、語種と意味の関係について考察を進めていきたい。Onomasiological approach に関してより多くの具体的な分析例を参照し、日本語の現象への応用可能性を探る。漢語と和語複合語の共通性については、それを示すための証拠として現代日本語だけではなく歴史的な観点からも検討を加えていきたい。特に、漢文訓読がこの共通性にどのような影響を与えているかについて、先行研究を参照する必要がある。現在のところ、藤井 (1990,2001)、竹内 (1986) において複合動詞が漢語の訓読に由来すると指摘されていることを確認しているが、さらに文献を調査していきたい。</p> <p>数量形容詞の研究については、今井 (2012) で行った記述的一般化を、何らかの形で理論的に位置づけることを試みたいと考えている。従来、存在を表す述語はその振る舞いの特殊性が指摘されてきたものの、語彙意味論的分析は手薄であり、慎重な検討が必要と考えている。ことわざ研究は、より多くのデータを収集するとともに、意味・語用論的情報のタグ付けの方法といったテクニカルな側面についても検討する予定である。</p>					
共同研究可能な分野 Research Fields feasible for joint research *1	言語学	日本語学	日本語教育		
キーワード Keywords*2	複合語	語種	ことわざ	数量詞	